

## 議会広報広聴委員会先進地調査報告書

1 調査年月日 令和6年4月16日（火）～4月18日（木）

2 調査地及び調査項目

<大阪府八尾市>

- (1) 市民参加の取組
- (2) 議会だよりの作成

<兵庫県丹波市>

- (1) 市民との意見交換会
- (2) ミライプロジェクト
- (3) 議会だよりの作成

<兵庫県西脇市>

- (1) 議会報告会
- (2) 高校生版議会報告会
- (3) 議会だよりの作成

3 派遣委員

委員長	岡	英彦	
副委員長	干場	芳子	
委員	石川	麻美	(復命記録：八尾市)
委員	高橋	典子	
委員	高間	専逸	
委員	高柳	理紗	(復命記録：丹波市)
委員	徳田	哲	
委員	藤城	正興	(復命記録：西脇市)
委員	吉田	美幸	

4 随行職員

議会事務局総務課庶務係係長	深見	亜優
議会事務局総務課庶務係書記	阿部	八輝

5 調査報告書 別紙のとおり



<大阪府八尾市>

1 八尾市の沿革

八尾市は大阪府の中心部に位置し、西は大阪市、北は東大阪市に接しており、大阪市の近郊都市として発展した人口約26万人(2024年4月現在)の中核市である。

主な特産品は枝豆と若ごぼうで、特に若ごぼうは全国トップクラスの出荷量を誇る。

夏の風物詩として毎年9月上旬に盛大に開催される八尾河内音頭まつりでは、河内音頭グランプリや大盆祭り大会などが行われ、多くの市民で賑わう。

また、豊かな歴史や文化財を有するまちであり、なかでも、中河内最大の前方後円墳の心合寺山(しおんじやま)古墳や、200基以上もの横穴式石室墳が集中する高安千塚(たかやすせんづか)古墳群は全国的にも知られている。

2 市民参加の取組について

(1) 市議会×高校生プロジェクト

選挙権が18歳に引き上げられたことをきっかけに、市議会だよりの表紙や題字を、高校の部活の作品や活動内容の写真から採用することとした。1年かけて八尾市内の全高校を回り取材する中で、主権者教育の機会と文化系の部活の表現の場としてのニーズが多いことがわかった。2巡目以降は学校側から活動をアピールしたい部活を提案してもらい取材をした。また、表紙に参加してもらった学生へのインタビューを行い、市議会を身近に感じてもらえるように交流をはかり、裏表紙に記事として掲載した。

(2) Meet & Greet with 八尾市議会

平成30年度から主権者教育の一環として、学生に議会への関心を持ち身近に感じてもらうため、学生の意見を議会だよりに反映させていくことを目指しMeet & Greet with 八尾市議会を実施した。準備期間は約3か月間で、当日は生徒が話しやすいフランクな形で行った。

平成30年度は、どうしたら若い世代に伝わるか、理解してもらえるかという観点から「議会の広報について」をテーマに、令和元年度は、どのような動画配信だと若い世代に見てもらえるのかということに意識を向け「議会配信について」をテーマにそれぞれ行った。取組の効果としては、率直な若者の意見を聞くことができたほか、市の条例がどのように出来上がっているかなどの流れを理解してもらうことができ、アンケート結果においても95%の学生が「よかった」と答えている。

(3) がんばるあなたを応援プロジェクト～YELL～

令和2・3年度は、コロナ渦でも頑張っている市民の皆さんにスポットライトをあて、委員会の所管に関係する団体等に向けて、各委員が手書きのメッセージを作成してエールを送り、それに対する回答をもらう企画をした。

コロナ渦で取材が十分にできない状況であったことから、市民と議会が交流できる機会として、誌面に市民の写真を載せることを企画し、笑顔というテーマで募集したところ、64件もの笑顔の写真が集まり、全ての写真を表紙に掲載した。

### 3 議会だよりの作成について

#### (1) 概要

やお市議会だよりは、1年間で定例会号4回、臨時会号1回の計5回、1回につき14万部（令和5年度）発行している。平成11年3月定例会号から市政だよりの合冊とし、配布方法は令和3年7月から町内会を通じてではなく全戸配布している。

これまで、令和元年7月に第14回中核市議会報コンクールで優秀賞を、令和5年7月に審査員特別賞を受賞した。

#### (2) 編集作業

議会だよりの編集委員会は、各会派から1名ずつ選出した7名で構成され、副議長を委員長としている。

編集作業用にデザインソフトの使用契約をしており、年間で111,368円のライセンス料を支払っている。このソフトを使い、事務局でデザイン・レイアウト・記事作成・データ編集作業を行い、業者にデータを出稿している。点字版議会だよりと声の市議会だよりの作成は業者に委託している。

編集方針として4つの基本方針を定め、伝える誌面づくりから伝わる誌面づくりを心掛け、まずは手にとってもらえるよう工夫している。また、議会に対する興味・関心を持っていただくための入り口として、他の広報媒体なども活用し、議会で議決したことが身近な暮らしにつながっていることを伝えられるように心掛け、誌面上で用語の説明や注釈をつけることにも配慮している。

専用のソフトを使い編集する際には、文字や空間も意識し、イラストや写真を用いながらバランスの取れた誌面作りを目指し、どうしたら若い世代に伝わるか、理解してもらえるかを意識して、高校生から聴いた意見を誌面構成に反映させている。

委員会のスケジュールとしては、基本的に1号当たり3回開催している。1回目の委員会で誌面レイアウトとページ数を決定した後、大まかな記事配置を事務局で作成。2回目の委員会で詳細な誌面レイアウトと内容を決定し、原稿を事務局で作成。3回目の委員会で原稿の最終確認を行った後、データ出稿と校正を事務局で行っている。

個人質問のページに関しては、各議員の名前の下に動画配信の二次元コードをつけて、動画でも視聴できるように工夫した。質問のタイトルは議員がそれぞれ決めていることが多いが、文章は本市と同様に事務局が作成している状況だった。

### 4 まとめ

市民参加の取組に関しては、アンケート結果で96%の方が「議会とのつながりをきっかけに学生が選挙に行くだろう」と答えたことから、本市においても大学が4つあることを生かし、若者の意見を聴く場が必要ではないかと感じた。

また、市民の皆さんに、市議会の広報広聴活動に関わっていただくことは、市議会への理解にもつながるであろうと考え、本市としてこれまで市議会だよりの特集として取り上げたことのある江別市議会と他団体との意見交換の企画は今後も続けていきたいと考える。

議会だよりに関しては、2024年2月号の裏表紙に「市民に寄り添う議員たち」と題して、議員の笑顔の写真とともに趣味や好きな食べ物などを載せていた。少しお堅いイメージの議員が笑顔を見せ、なじみのある質問を答えることによって、議員の

存在をより身近に感じてもらえる企画となっており、今後、本市でも参考になるものと思われる。

また、全体的に余白の部分やイラストが十分に使われており、とても見やすく感じた。記事の作成は、専用ソフトの大まかな枠組みやフォーマットを使用することができるため、多少は作業が楽になっているようだった。本市でも事務局の負担を少しでも軽くすることができるよう、専用のソフトを取り入れることの必要性を感じた。このほか、市政だよりとの合冊や学生との交流など本市で取組んでいない内容も、今後検討の余地があるものとする。

## <兵庫県丹波市>

### 1 丹波市の沿革

丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、市内西部を南北に日本標準時子午線（東経135度線）が通っており、北東では京都府、南東では篠山市、南西では多可町、南では西脇市、北西では朝来市と境を接している。

阪神間からJRや自動車です約2時間圏域であり、市内の南部地域は阪神都市圏との関わりが比較的深く、一方、北部地域は隣接する京都府等との関わりが比較的強くなっている。

地形は、本州の骨格の一つを構成する中国山地の東端に位置し、粟鹿山をはじめ、急斜面をもった山々によって形作られた中山間地域となり、その山々の接点を縫うようにして二大河川の源流が走っている。一つは瀬戸内海へ注ぐ加古川とその上流河川、もう一つは日本海へ注ぐ由良川の上流河川である。特に市内の石生の「水分れ」は海拔95メートルに位置し、本州一低い中央分水界となっている。

### 2 市民との意見交換会について

#### (1) 概要

丹波市議会では、議会が主催の「市民との意見交換会」と、委員会が主催の「懇談の場」の2つの形で実施している。

市民との意見交換会は、旧町域である6地域で主に5月・11月にワークショップ形式で開催。「見えない議会」からの脱却を目指し、従前から議会広報広聴委員会の主導で積極的に市民との意見交換を行ってきたが、参加者が少ないことが課題だったこともあり、令和5年度は従来の地域出張型の意見交換会に加えて、「井戸端スタイル」なる新たな形式の意見交換会を実施した。これは、市民側からの申し出により開催する形式の意見交換会であり、時期や場所を柔軟に設定できることで、「開かれた議会」の充実を図ることを目的としている。

懇談の場は、各種団体から懇談の申込みがあったときや、特別委員会が設置された際に、より広く市民の意見を聴き議論を深めるために必要があると委員長が判断したときに開催している。

#### (2) 井戸端スタイル意見交換会

##### ○概要と開催方法

市民や団体からの参加申込みにより、5名以上の参加者がいることを条件に開催。開催場所は市内公共施設等とし、会場費が発生する場合は市民側の負担とする。開催時間は90分以内とし進行は市民側に委ねる。要望活動のみを目的とするもの、営利目的や宗教活動に類したもの等は受け付けない。要望等は請願や陳情を案内する。

##### ○議員側の役割と開催後の報告方法

議員は2～3名で1班を作り、1チーム2班以上で出向く。1班に1名ずつ記録係を決めて議会向けの報告書をまとめ、議会運営委員会に報告書を提出する（開催7日以内）。議会運営委員会では、担当の委員会ごとに意見を分類する（委員会調査を進めるもの、市長に回答を求めるもの、意見・要望として市長へ伝達するもの）。

##### ○周知方法

議会だより（たんばりんぐ）、市議会HP、市議会公式FB、新聞、防災行政無線、FM805、案内チラシの設置（市内公共施設、市民プラザ）、議員によるPR活動



### 3 ミライプロジェクトについて

#### (1) 取組の概要

市内3校から高校生が集い、福知山公立大学の協力のもと、議員も交えて政策提言に向けた準備を行い、取りまとめた政策提言を議員向けに発表するというもの。

平成30年度からオンラインも含め計5回実施したが、令和4年度までは1回につき1日間の日程で集まり意見を聴くだけであったが、下記の反省点を踏まえ、令和5年度からは抜本的改革を目指して開催方式をバージョンアップさせた。

(反省点)

- ・3年に1回だと体験できない学年が出てくる。
- ・高校生主導による3高校連携プロジェクトの実現（架け橋プロジェクト）
- ・1日の交流で「議員さんに親しみを感じた」だけの感想からの脱却

(バージョンアップ内容)

- ・議会として高校生から意見を聴きたいというテーマを設定
- ・1日で終わらせない。1回目はキックオフミーティングとして意見を出してもらい、出された意見から政策提言につなげるための考える期間を設けた後、後日再度集まって話し合い、最後に本会議場で発表する流れとした。

実施年度	平成30年度から毎年実施(令和2年度は新型コロナのため中止)
対象者	市内高校の生徒
予算	1万円程度（消耗品費等）

#### (2) 取組に至った経緯

平成29年度に「これからの地域に求められる持続可能な地域創生とは～関係人口から考える～」をテーマに行われた議員研修会にて、講師を務めた福知山公立大学准教授から、大学生・高校生・市議会議員による懇談会開催の提案があったことから、他自治体の高校生模擬議会の視察等を通し、主権者教育としての意義や開催方法を調査した後、丹波市独自のスタイル「ミライプロジェクト」の形式を構築し

た。

(3) 取組の効果・成果

- ・ 高校生が議員に対して提案を行い、議員がそれに答えることで、高校生にも議会への関心を高めてもらうことができた。
- ・ 参加した生徒からは、自分の意見を話すことの大切さや政治に関与することの大切さが伝わったとの感想があった。
- ・ 関わった議員も高校生との交流を通して刺激を受けている。

4 議会だよりの作成について

(1) 取組の概要

丹波市議会では、議会だよりに対する堅苦しいイメージからの脱却を図るために、アンケートや高校生を対象とした読者モニター会議を通じリニューアルに取り組んでいる。

(2) 議会だよりに作成における基本方針

①説明責任を果たす誌面づくり

- ・ 議員の賛否はすべて公表
- ・ 掲載記事は事実に基づき正確に

②親しみやすい誌面づくり

- ・ ターゲットは高校生から子育て世代まで
- ・ 目指すは「5分でキャッチできる議会だよりの」

③読者参加型の誌面づくり

- ・ 読者モニター会議の開催
- ・ 取材を通して市民が登場

丹波市議会だよりの「たんぼりんぐ」の概要

項目	丹波市
1 人口	66,581人(令和6年3月末現在)
2 世帯数	26,491世帯
3 面積	493.21㎢
4 条例定数	20人
5 議員数	5人 (市長、議事録採録委員、議事録係長、議事録係長 各1人、定例 1人、定例 1人)
6 広報広聴特別委員会	総務文教常任委員会・民生産業常任委員会から助議員を含む各3名と、予算決算常任委員会より副委員長1名の合計7名の委員で構成。正副委員長は互選。
7 仕様	A4判、表紙・裏表紙カラー、中面2色、黒基調紙(中綴じ)2ツア活封金綴じ、マットコート紙44.5㎜
8 ページ数	20ページ
9 発行部数	22,208部
10 発行回数	年4回(定例会の翌月20日発行) ※定例会翌月20日(定例会終了の約20日後納品)
11 契約方法及び予算	20ページ/年4回分の合計額で契約 (仕分け約430通り、コンビニ等への配達含む) 86年度執行見込額 2,173,380円(税込) 1号あたり543,345円
12 たんぼりんぐの由来	田んぼが和やかに風に揺れ、タンパリンのように、にぎやかに議論し、丹波市を前進していく市民の様子を表しています。 【平成17年3月発行たんぼりんぐ創刊号「編集後記より」】



議会広報調査表

区分	比叡市	丹波市
人口	111,878人	61,364人
世帯数	59,236世帯	26,299世帯
面積	1,877.38㎢	493.21㎢
議員数/議員定数	25人/25人	20人/20人
編集体制	議会広報広聴委員会	広報広聴委員会(特別委員長) 市長、任期2年 総務文教常任委員会・民生産業常任委員会から助議員を含む各3名と予算決算常任委員会の副委員長1名
委員会構成	9名、任期2年	「議会だよりのたんぼりんぐ」編集長(副委員長)
編集方針	特になし	「議会だよりのたんぼりんぐ」編集方針(9/23)
発行回数	年4回	年4回
発行日	2月、5月、8月、11月の各月1日(納品は前月26日頃)	定例会翌月の20日(納品は14日頃)
発行部数	43,400部/回	22,200部/回
配布先	市広報紙部・市民課、市内公共施設等	配布先を希望された自治体(議員単位)・議員会派及び市民センター・福祉センター・公民館等(希望者あり)・各町会・各支部・各公民館・各町会・各支部・各公民館・各町会・各支部・各公民館
配布方法	市の広報誌と一括配送し、自治会を通じて配布している。	市内各(主に)自治会加入費等、コンビニエンスストア、市内各施設、図書館、市民センター等
発行までの日数	約60日	50~60日
編集回数	約3回/号	1回/号
事務局の分担	印刷費、印刷費前ページ制作、全社宣伝など	印刷費、発行部との原稿調整、レイアウト、校正など
規格・ページ数	A4 12ページ 表紙・裏表紙カラー、中面白黒	A4 20ページ 表紙・裏表紙カラー、中面2色
印刷代	3,992,000円/年(令和5年度当初予算)	2,174,540円/年(令和5年度当初予算)
発行費(費用弁償)	あり(任期2年目と4年目)	あり
委員会研修	先進地視察など	先進地視察など
その他		

5 まとめ

丹波市議会では、市民との意見交換会の準備、運営、報告、議会だよりの編集作業や掲載内容の決定について、どれも広報広聴委員会を中心として議会が主体的に取り組んでいる。

江別市議会の意見交換会は、現行のワークショップ形式での開催が定着してきていることから、今後は市内大学等に働きかけるなど、地域貢献や主権者教育の観点からも、開催方法に関して研究の余地が十分にあると考える。

本市の議会だよりの作成は、特集ページの編集や表紙の写真選定は議会広報広聴委員が中心となって行っているものの、実際の作業はかなり議会事務局に頼っているため、事務局職員と議会だよりに関する課題を共有したり意見交換を行うことが必要ではないかと感じた。また、現在、江別市議会ではオフィスソフトを使用して議会だよりの編集を行っているが、今後は業務負担軽減のために編集ソフトの導入を検討すべきと考える。

## <兵庫県西脇市>

### 1 西脇市の沿革

西脇市は兵庫県のほぼ中央に位置しており、阪神都市圏からは60km圏内、東経135度と北緯35度が交差する日本列島の中心、いわゆる日本のへそと呼ばれている。中央部を加古川が流れ、南部には杉原川、野間川と合流し河川沿いの平野部には集落や農地が形成されている。

気候は瀬戸内式気候に属しており、一年を通じて温暖な気候である。

人口は年々減少してきており、令和6年4月1日現在で37,978人（男18,263人 女19,715人）、世帯数は17,233世帯となり、高齢化率も令和6年2月1日時点で35.6%であり県内41市町の中では19番目の高齢化率となっている。

地場産業で有名な播州織は、国内染色織物の70%以上のシェアを占め、独特の風合いや色彩、肌触りの良さからハンカチやシャツなど様々な製品に加工されている。釣り好きの多くが知る播州毛鉤は全国の毛鉤の約90%を占めている。

農業ではイチゴや黒田庄和牛、そして特産物としては山田錦の酒や播州ラーメンなどが有名である。

北海道富良野市とへそつながりにて友好都市提携30年以上の交流があり、昨年は富良野へそ祭りに議員全員で参加するなど、互いの市の活動を盛り上げており、北海道にも縁のある市である。

### 2 議会報告会（議会と語ろう会）について

#### (1) 経緯

平成22年に第1回を開催し、最初は8地区ごとに分けていたが、平成27年11月（第11回）から令和4年11月（第20回）までは、全自治会・町内会単位とし、2年間で全80自治会、年間600人程度に参加いただいた。しかし、過密日程であったため、令和5年度からは4年間で80自治会とし、自治会のほかPTAや消防団、女性会、老人会などにも出向いて実施している。

#### (2) 運営方法

ワークショップ形式としており、議長を除く15人の議員が5班に分かれ、各班3人の議員が1会場を担当し、事務局職員は当日参加せず、備品の準備等のみとしている。

2部構成で行い、第1部は議員が定例会の内容を報告し、第2部は3グループ程度に分かれて、議員1人が1グループを担当してファシリテーターを務め、グループディスカッションをし、最後は全体発表を行い会場内で出た意見を共有している。テーマは西脇市の活性化について、西脇市が選ばれるまちになるためなど幅広く設定している。

政策提言までの流れとしては、議会と語ろう会で出た意見や要望を、班会議で精査し、常任委員会別に分けて協議した後市へ提言している。その後市側で検討を行い、予算を議会へ上程し、議決後に政策実施という流れとなる。

#### (3) これまでの提案で実現したこと

- ・学童保育の預かり時間を8時15分から7時30分に前倒し

- ・福祉タクシー券の利用枚数増加 など

#### (4) 課題

自治会単位での開催のため、役員や特定の世代との意見交換が主になってしまっていたことや、企業誘致・買い物・移動手段に関する類似意見が多く、世間話を中心であった。また、報告会から常任委員会までのスケジュールがタイトで、調査に必要な時間を最低限しか取れず、連日夜遅くまでの実施であったことも議員の大きな負担となってしまう、結果的には政策提言につながりにくかった。

それらを踏まえ、令和5年からは4年間で80自治会としたことで、より幅広い世代や女性グループをはじめ各種団体の意見を取り入れる機会を増やすことができ、課題解決へとつながっている。

#### (5) 周知方法

議会だよりやHP、議会FBなどで行うほか、各班長が開催依頼文と回覧チラシを持参し、協力依頼をしている。班員は広報広聴特別委員会で決定しており、議員歴や所属委員を考慮して決定しているが、担当する自治会はランダムに決めている。報告書については、以前は作成していたが、現在は作成せずに議会だよりに都度掲載している。

### 3 高校生版議会報告会について

#### (1) 概要

平成29年から令和元年まで、議会における主権者教育の一環として、市内の県立高校にて開催した。議員が役割を分担して、第1部はパワーポイントを用いて地域の在り方や議会の役割などを説明し、議員がファシリテーターとなりグループに分かれテーマごとに意見交換した後に各グループの発表を行い、情報共有を図るワークショップ形式で行っている。

提案される意見は、公共交通の充実や通学路等の整備など高校生ならではの内容が多く、主権者教育としての役割を果たしてきたことに加え、議会に興味を持ってもらい、高校生の意見を直接聴くことができたことは大きな成果である。

令和6年8月には、この取組の最大の狙いであった高校生議会の実施を予定しており、現在、開催に向けて高校側と調整中となっている。最初は高校側から良い反応がなかったが、近年は、探求学習が取り入れられていることにより、高校側の反応も良くなり、高校生議会への発展を後押ししたと考えている。

### 4 議会だよりの作成について

#### (1) 概要

年4回の定例会ごとに1回当たり16,200部を発行。ページ数は約20ページ程度で、以前は縦書きだったが、パソコンの普及により全ページフルカラーのA4横書きとなっている。

予算は、1ページ当たり1,680円×20ページ×4回×16,200部であることから、2,396,000円となる。

配布方法は、印刷会社からシルバー人材センターを通し、各自治会から家庭へと配布している。

## (2) 編集作業

編集スケジュールは、定例会中に前号の見直しを行い、次号の掲載内容を協議し、おおよそのページの数や担当者の割振り、締め切りスケジュールの確認を行っている。定例会閉会の2日後から3日後に、議員は原稿データを事務局に提出し、定例会翌月10日前後までに原稿を完成。その後、協議会を開催して原稿の読み合わせを行い、業者にゲラを送り、届き次第委員会において確認後、議長に提出して定例会20日前後に最終確認を行い発注している。

事務局の役割は原稿データの取りまとめ、読み合わせ原稿の作成、業者との調整、一般質問の答弁作成等である。

デザインや配色は議会だよりモニターの意見を参考に外注し、構成や企画は広報広聴特別委員が決めている。取材は委員が自ら行い、写真掲載の許可は必ず行い、市広報の表紙と重複を避けるなどの配慮をしている。

## (3) 議会だよりの改革

議会だよりモニターを導入しており、年齢や男女比を考慮の上、広報広聴特別委員が8人程度を推薦している。1年任期の再任は妨げない形とし、年2回実施している。

最近では出版社の方もモニターに加わり、幅広い意見やデザイン性、読みやすさ、配色にも考慮し、若い世代にも読んでもらえるように議会用語にも解説を加えるなど、議会を身近に感じていただく広報を目指して取り組んでいる。ゆくゆくは、議会だよりモニターを発展させ、議会モニターにつなげたいと考えている。

## 5 まとめ

西脇市では、広報広聴特別委員長を副議長が担っており、議員自らが80自治会に出向き、女性グループや各種団体、高校生など幅広い世代の意見を聴き、さらに、議会だよりモニターの意見も参考にするという広報の先進事例を聞くことができ、大変参考になった。江別市議会においても、市民との対話の回数を増やし、幅広い世代や団体の意見を聴くことが、議会改革にもつながると感じた。

また、今回学んだことを、スピード感を持って取り入れることができる委員会にしていくことが、市民の議会離れを抑制し、透明性のある身近な議会につながるものと考えている。今後の広報広聴のあり方について西脇市から手本を頂いたことと、今回視察をお受けいただいたことに感謝申し上げたい。